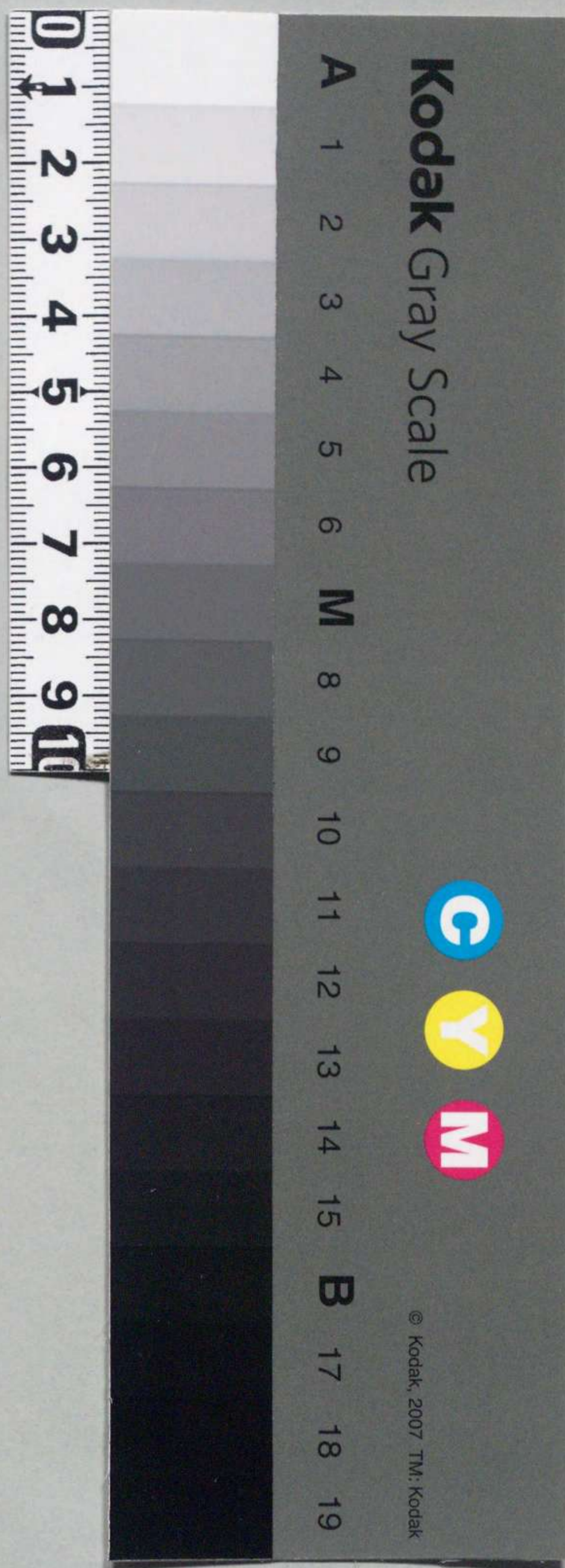


寛永諸家譜

藤原氏丁三冊之内三
道隆流

99

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 (99)
函號	特 76 1





大森

三雲

寛永諸家系圖傳

藤原氏

通隆流

大森

丁三 小家

淺草文庫

大織冠十二代

道隆

定頼（一） 佐久（二） 平氏（三） 又（四）

従一位 内大臣 攝政 園白 中園白と号す

伊周

正二位 内大臣

母の後二位高澄業忠の女

花山院の御宇に攝政とありて

犯しありてあるのしに 教用は達する

一一条院の御宇に長徳二年

名を惟親とありてありて大宰権帥

たはなせし

忠親

次郎大史

同四年 初史とありてありて京にありて

てありて新集のとき大史の下大納言

のよりありてありて

寛弘五年大史はありてありて封戸

一千戸とありてありて儀同正人と呼ばる

同七年正月二十八日薨す

母ハ上東つ院の女侍侍得ハ捕糸白
大中后捕親ガ女ヲ
父内大臣左近ノ一ノ子トシテ和親又捕親
これト侍得ノ母トシテ養育セシメテ
又上之と号シ又帥ノ人更と号ス

惟康

侍得新ハ高之文 後河守
母ハ三位実範ガ女

和伯父侍得控守これト養育セカレガ
ゆヘ侍得ト号シ中比之別子孫
の庄ト領シテ一ノ子トシテ侍得ト号シ
それヲ甲斐後河内四司ト福仁
セシメ
法名定義家法 院ト天津ト号シ
後河内之庄トシテ墳墓ト
築大森ノ天神ト号シ

親家

伊保 信濃守

くづりて定康と号して

母ハ令昆孫中弼之幸唐ノ女

親家

大森 一 信濃守

母ハ源為義の女

親家

次郎 俊 信濃守

源頼朝ハ父子ノ忠義ト感シカ

親戚トシテヨリ諱字トシテ

頼忠と号をかくるがゆへに子孫
みやく頼の字と号をく名と

行頼

六郎 兵衛尉 行頼

経頼

次郎 大守尉 経頼 乃号
傑山

惟頼

与一 佐濃守 法名清徳 通号天寿

頼顕

与一 佐濃守 国东の御所中へて頼顕と号
念の侍所とも又相州小田原の城に
居しとる方代警衛とある

法名 蓮法 道号 大念

藤頼

与一 式部人権 小田原の城

位と

法名 信格 道号 右標

頼明

与一 信濃守 小田原の城

関东 御所 桐の紋と 孫の家

了ら子孫 之れ 桐と 之りて

家の紋と

法名 信諾 道号 光若

頼春

与一 信濃守 小田原の城

寛永 二十三年 関东 源氏 の家臣

上杉 右馬 佐氏 憲が 謀反

持氏後列し退出せし持氏の親善
父子忠義とぬえんで持氏と鎌倉
可しと心
法名光公 玉山

證實

江平

大僧都

巨洲菅根山別当

氏頼

与一伝信守 左馬依後一寄持府と
号しと

氏頼又祖が忠切ありよしりて加冠せ
しと持氏より諱の字と給りし
氏頼と号しと小田原の城に侍てお孫
川と名を領ありし時同来スよみよき
徳家おとよと名とありしと氏頼と名
義兵と名と武切有よりて此
名とありしと名とありしと名とありしと
名とありしと名とありしと名とありしと

子孫源の成氏をいひて政氏と
く家つ年無のこさをまらひく
漸父祖の職と継ぎしをいひて
氏頼四好といはれど其懐をいふ
似ふるといふと猶謀逆の臣あり
て成氏政氏といふいふあつる
不ふれざるやいふらうといひく
やういふ兵とせし東家と一統
して政氏といふやういふことと

あつたあつたといふやういふ家
やはわりの素懐といふこと
明徳二年八月二十一日小回原
といひて死をいふは名は昇
道号

實雄

法印 信正 善根山別當

實執まじり

大膳入道おののぶ 源波守みなねのり 筑前守たけちのりと改む

おらよ不二ふた卷まきと号なづと

小田原の城しのだはらのに任まかせ又また氏頼うぢのりと先

ぶりに死しに泰頼たいのり幼少こしょうなるよしありて

依地よぢと友頼とものりよりよりいづくは名の厚なみのあつ

道号みちなづ淳義じゆんぎ

藤頼ふぢのり

任まかせ守まもり 後筑前守のちたけちのりと号なづと

小田原の城しのだはらのに任まかせ

明應四年あきおのし巨洲こすの里の小條こぢ早雲はやぐも

小田原の城しのだはらのとやうよう友頼ともが一族いっしゆ同

國美田くにのみの城のにありありてて居ゐり

ましきでし二年にと歴あむむららむ

と云いふふ小田原しのだはらと美田みのややと云いふ

兵へいととゆいふふ一いつつももいいふふとと云いふ

ややとと云いふふとと云いふふとと云いふふとと云いふふ

女子

一族小條グハツノハ
法名道存 道号心知

之浦法真守平義同入道乃寸母
法名明秀 道号松岩

泰親

泰十郎 相持國小田原ノ
友親没洛ノとき少年ニ

正也ノ真回ト
乃寸母ノ一家ノ冠ト
天文十子甲明ノ死ト
法名道休 乃号中存

泰次

菊池甚七郎 下総守 中四甲斐
父泰頼死して此ら小條が家臣
山申仙波の泰次が親戚をもち
しりてまうりよ泰次といさうあ
相列りり一海小條の泰次が一族の
しりあつるゆへに外祖の姓をり
しり菊池と稱せりよしりて仙波

うんごを同ろしてらまると接
育と

寺長十八年八十二歳死して
法名生西 通号社琴

泰定

菊池甚七郎 下総守 中四甲斐
寛永十五年八十二歳死して
法名念如 号慶泰

定頼

佐久弓久七郎 後六太夫とありし

お洲小田原よしよか

母左式部少輔友原資重しんちの女むすめ

天正十一年紫田播磨家河川志保しほが

獄ごくととむく其臣秀吉ひでよしやめい

〜〜い村を〜〜い播磨はりまの

佐久弓佐前守平安政やすのりを〜び

大悟亮おほごろう之の美死みじと〜同東どうとう

下したは小條氏政せうじょうしとけ時氏政ときし

外祖ぐわいそ父資重しげしげの女むすめと〜勝かつ之の

嫁よめと小條没落せうじょうぼつらくの故ゆゑその縁ゆかりとありて

勝之定頼かつのさだのりと養育やしよくを〜いよとこれ

氏うぢと冒ぼう〜ありた〜佐久弓と稱なづを

号なづな長五ながごと同原陣どうげんじんの時勝之ときのかち也

共とも〜陣じん中なか〜い〜

同六年勝之定頼と〜

名瀬院殿一福一子一七可一

定頼十五歳

同十九年の冬大坂御陣の時
牧野内通頼信成が紐よりの名鷹

一子一七可一御本陣

長門の書とつとじ

望月大坂御陣一松平越中

定綱が紐よりの侍一天皇

名瀬院殿一福一子一七可一

先づらすみく城中一入野平二
人と討捕とつとじ和方城
入んごうとそれ首とつとじ
とよぶれきらまらよ子貫橋の
評下つとつとじ

頼直

依久る久七郎 武州に居る生保

元和七年秋五十五歳の時

名流後教と禱

寛永二年一月 河小姓部

番と所と心

礼道

佐久房と左衛門尉 牛島月外

大森家紋 二枚左巳

佐久房家紋 丸内三

大藏冠十二代

● 通隆

三雲

家傳了りいさくえい大河原也
稱と新左馬實乃りいさく
あゝぬめく三雲也号と

正二位

内大臣

伊周いしゅう

正一位

内大臣

伊行いぎょう

左衛門督
兼左大臣

恒行こんぎょう

家行かぎょう

武藏守

河内守

家弘かこう

児玉左衛門尉

弘方こうかた

左衛門尉

實高じつこう

左衛門尉

正治二年正月十九日大藏卿

建保四年十二月十日大藏卿

仁比

武茂公たけしげ 公きみ 院いん 玉たま の 庄しやう 上かみ 野の 玉たま の 山やま の 庄しやう
同どう 公きみ 書しよ 郡ぐん の 内うち 中なかつ 山やま 村むら 越こ 後ご 公きみ 在あ 保ほ
孫まご 重しげ 根ね 保ほ 大おほ 積つみ 保ほ 加か 須す 公きみ 河か 田た 村むら 等ら
仁に 治ぢ 二に 年ねん 正せい 月げつ 了りやう 病びやう 死し と

實家じつけ

實行じつぎやう

太郎たろう 左ひだり 衛ゑ

左ひだり 衛ゑ 右みぎ 衛ゑ

時國ときくに

新あらた 左ひだり 衛ゑ

法はふ 名な 本もと 宣のたま

實信じつしん

左ひだり 衛ゑ 七しち 郎らう

法はふ 名な 宣のたま 連れん

行義ぎやうぎ

次つぎ 郎らう 左ひだり 衛ゑ

法はふ 名な 道みち 承じやう

家實 いざみや

初重

法名道実

家實十八歳なりて同東より越後の
尾崎のふもとにゆくことあり玉城の
一揆とおこし家實は他の守護に
あつて三つに大切と抽

實綱 いざみや

瓦張守

景實 いざみや

石出六郎

法名宗実

朝實 あさみや

三郎重

孝實 たかみや

法名行隆実

實乃

三雲新島

明應年中江別

と云ふ一居と云ふ

称号と云ふ

行定

源内左馬

江別下甲寅并

此ら一と云ふ九万石餘と云ふ

知と云ふはら刀と亦教多わわ

三雲一と云ふはら刀と亦教多わわ

寺門子居候と

定持

新島 此ら一対馬守と号と

三雲一城一と云ふ

天文年中儒天心明初一入少
定持縫目うき得く皮の鞆と求んが
く免奴僕とくくられり
い天心敏初のととき大明寺の吏部尚
書同石塘とくくられり
且又書と添其畧とくくられり
た令各定持公とくくられり
武畧愛出凡庸副使天心明初
揚之不絶誦之貴辞由以知公之賢

益教書為二十四郡出郡之人
其書今一これあり
元龜元年織田信長河州を殺向の
こき定持信長とくくられり
しといひ終一我死と果みす

賢侍

新之郎 新左衛門とわ
永禄三年依く本義禎浅井俊成

守と合戦のとき、噴物承禎、扇一
江州小郡、討死、采女
又

成将

冬、新庄、
之、
とう

天正十二年

東照大権現、
備后、

秀吉と尾州小牧、
討陣あり

代、
百余人と率、
代、

こ、
榑、

榑、
榑、

又、
信、
其、

今度お抽忠儀并江州不知分
如前可宛以条て盡然切
事当一々其切

卯月十三日依雄判

三雲新屋針成

其方男上之儀江州不知分
中付人条孫之油以徳事と潤

略忠節所寄作者也仍如件

天正十二年

卯月廿六日家康判

三雲新屋針成

上之儀忠儀并江州不知分
野洲河内并上道同并下甲
有河小川南河内法入地宛切上

令可^し知^らる^べ也

天正十二

六月廿日 佐藤朱尔

之雲新屋門尉殿

納馬竹の子と女老母船に
寛急とて玉と夜急と系細
酒井左衛尉とてとてとて

十二月二日 家康御判

之雲新屋門尉殿

大指^し次^し并^し一^つ行^は確^か不^た領^らと^もま^まと^も

の^し孫^あり^やい^どと^も此^津と^も

和^睦を^しれ^其事^をと^して^いり^ま

小^牧退^陣の^すら^藤生^飛孫^守氏^郷

と^しり^りあ^り成^持り^書る^氏郷^が

伯母とと しほ

長八年十二月六十四歳しほ

病死しほ 是名道珍しほ

成長しほ

新三郎 しほ

文祿二年しほ

入於現しほ

長元年しほ

同二年食祿しほ 上しほ

望陀郡しほ 宋地しほ

しほ

同五年しほ

月九日しほ

宋地しほ

又改しほ

入於現しほ

名徳院しほ

寛永元年 仰しけり

將軍家一行之人

同十二年十月六日感病死

法名守慶

成時

新二郎

元和五年

台酒院殿 祥福

同九年

將軍家一了

寛永元年 西初橋津

て大也書

同十二年 仰し

二条法成の書

同月十月廿日病死

法名宗春

定氏

内記

寛永三年

將軍家了りけり

月十八日二月十日使中守資宗

仰せつけし御りし法家の系圖と

えりし同十一月朔日作

しりて西瓦加左衛門尉正信同出之島

定信

内藏物

正成是合伊左衛門尉具枚ホと彼席
とひりし御りの役とけり

家紋

軍配團扇内一文字

